



1年目職員
高見 恭平

先輩職員
萩原 良平

■この一年仕事をして初めての感想は？

高見 河川港湾係の仕事は、いつもチームで仕事していますが、土木係の仕事である道路改良工事の設計や監督業務は、自分一人で担当しています。それがかなりプレッシャーでした。その分、道路の工事が完了して、きれいに舗装されたのを見ると、すごく達成感を感じます。私は、休みの日によくランニングをしているのですが、つい、自分が工事に携わった道路まで走りに行ったりします（笑）。

萩原 担当する業務が、河川や港湾、崖、道路など、本当に幅が広いので、最初は大変だったのでは？

高見 もう本当に覚えることが多くて…。特に、こんなにも法律の知識が必要になるのか、というのが驚きでした。河川法や港湾法、道路構造令など、たくさんの法令が関わっていて、それを理解できていないと仕事ができないことを実感しました。

■先輩から見て、高見さんの1年目はどうでしたか？

萩原 最初は、言われたことを必死にやっているな、という感じでした。でも10月くらいからだっただけ、次はこれをしないと、と考えて仕事をしているのが分かり、成長を感じました。あと、自分なりに調べて相談にくるようになってきたりとか。

高見 初めの頃は、何をどうやって調べたらよいかも全く分からず、全て萩原さんに聞いてました。その都度、これを見たらいいよ、と適切なアドバイスをいただき、なんとかやってきたという感じです。

萩原 あと、最初の頃から電話などの対応がとても良くて、すごいなと思っていました。

高見 ありがとうございます。率先して電話に出て、たくさん対応することで、いろんなことを早く覚えられたと思います。

萩原 市民の方と直接話をする機会も多くありましたね。

高見 はい、思っていたよりも大変でした。道路改良工事は、地域住民の方からの要望を受けて設計するのですが、自分はこの方がいいと思っても、地域のみなさんの思いと違うときもありました。そういうときは、納得していただくことの難しさを感じました。

<高見さんの仕事紹介>

土木課は土木係と河川港湾係がありますが、私は河川港湾係で、河川の新設改良、維持管理、砂防事業、河川港湾団体に関する業務を担当しています。

具体的には、市が管理している倉敷川の草刈の業務委託を発注して監督したり、市民の方から要望をうけて危険な急傾斜地を「急傾斜地崩壊危険区域」に指定するために県へ提出する申請書を作成したり、採石場の点検なども行っています。

また、土木係の仕事である、道路新設や改良工事などの設計・監督業務にも携わっています。

■高見さんにとって、先輩の存在は？

高見 ずばり、お手本ですね、「こうなりたい!」と思う存在です。いつも根拠をもって設計されているので、地域住民の方へも、きちんと筋が通った説明ができるところがさすがだなと。そのためには、やはり萩原さんのように、仕様書や構造令などを見ていつも勉強して、知識を蓄えることが大切なんだと思います。

萩原 なんとなくこうしたい、ではなくて、しっかりと自分の考えをもって設計できるようになってほしいですね。

高見 少しでも萩原さんに近づけるようにがんばります。あと、萩原さんには「準備の大切さ」を教えていただいたんですが、これは仕事をするうえで、とても大切にしています。例えば、説明をする前には、事前にきちんと資料をつくったり、話す内容をまとめておいたりすることで、その場で、頭の中にあることを説明するより、説得力がぐんと上がったと思います。

萩原 仕事は「段取り」が一番大事ですからね。今はいろいろ経験して、先を読む力をつけていくことで、先々のことを考えながら仕事をしていけるようになると思いますよ。

■来年の抱負は？どんな職員になりたい？

高見 来年はもっと臨機応変に対応できる職員になりたいです。工事現場では、何か問題が起きたときに、いち早く解決策を工事業者の方と一緒に考えていく必要があります。1日でも判断が遅れると、その分、工期が延びてしまい、市民のみなさんにも迷惑をかけることにつながってしまいますので。

萩原 そうですね。私は、高見さんには周りから信頼される職員になってほしいです。私自身もそうなりたいですね。同僚や上司からの信頼はもちろん、市民のみなさんに信頼されることはとても大事だと思います。信頼関係があれば、仕事が円滑に進むことも多いです。そのためには、今の仕事一つ一つを一生懸命していくことですね。

高見 はい。これからもっとがんばって、周りから信頼していただける職員になりたいです！